

特別講演 2

「糖尿病と高血圧症」

国立循環器病センター 動脈硬化代謝内科 部長

吉政 康直 先生

糖尿病と高血圧症はそれぞれ固有の病態をもっている異なる疾患である。また、日本人においても吹田研究、久山町研究が示すように、独立した心血管病のリスク病態である。

近年、糖尿病と高血圧症が並んで論じられることが多くなったことには2~3の理由があるように思える。ひとつは、糖尿病は心血管病の重大なリスク病態であり、糖尿病に合併する心血管病の予防のためには、血糖のみならず、高血圧、脂質代謝異常や肥満などを同時に管理することの重要性が認識され、特に高血圧の管理の重要性が指摘されていることである。また、糖尿病と高血圧をリンクする病態である肥満、インスリン抵抗性やメタボリックシンドロームが、生活習慣の変化により、有病率が増加してきているとともに、近年、それらの疾患の成因や病態の解明が進み、糖尿病に合併する高血圧の治療にはこれらの病態の改善が重要であることが示されていることによる。さらには、降圧薬と心血管病の関連についてのエビデンスにより、糖尿病に合併する高血圧の治療についてガイドラインが策定されている。

本講演では、糖尿病と高血圧について心血管病のリスク病態であることをしめす疫学、糖尿病と高血圧をリンクする病態、そして、これらを踏まえて糖尿病に合併する高血圧の治療のあり方について論じる。